



カンボジアの子どもたちに教科書を

2019年1月 No. 66

これまでの活動の成果の振り返り 第四回

代表理事 江本哲也

日韓アジア基金も皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、発足以来、今年で17年となりました。ここで、この間の活動の成果を振り返り今後の会の発展の糧としたいと思います。今後ともご支援よろしく申し上げます。

～目次～

ページ

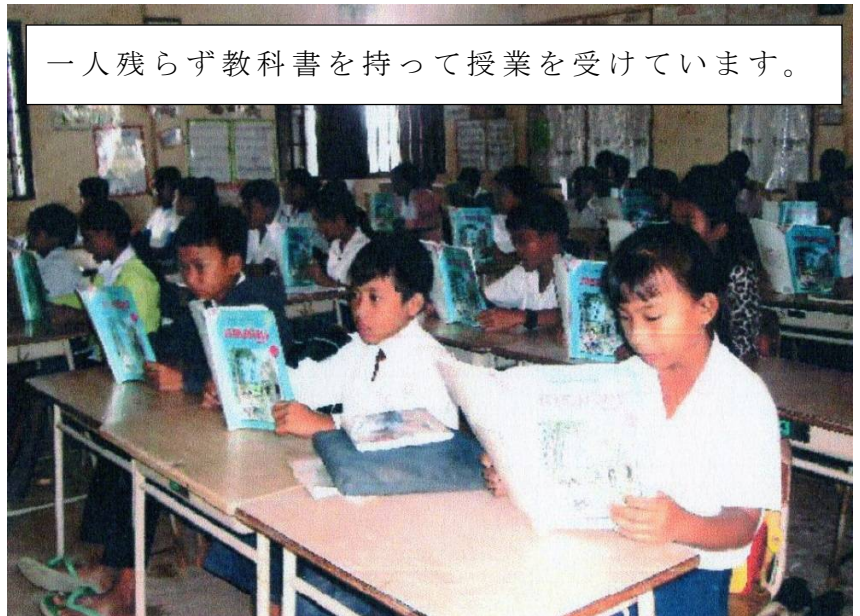
・これまでの活動振り返り	1
・カンボジアたより	3
・クラウドファンディングお礼	4
・ウ・スグンさん来日	5
・ボランティアで得た事	6
・大澤さんを偲ぶ会	6
・ボランティア活動参加にあたって	7
・事務連絡	8

前回のニュースレターでご報告の通り、2009年にルセイサン小学校、ワット・ハー小学校、それぞれに合計570冊、827冊の教科書・教員用教材・辞書などを購入し寄贈しました。

日韓アジア基金では、両校の先生方から、本教科書プログラムについてその後の状況・今後の課題・改善点など、定期的に報告を受けています。支援者の皆様、日本のスタッフが現地の状況を正確に把握できるようにするという目的だけでなく、報告や提案を求めることで現地の人たちに、ただ支援を受けるだけで終わってしまうことなく、主体的に教育環境の改善に取り組む意識を持ってもらいたいと考え、活動の評価基準（教科書を補填することによって具体的に得られた成果や費用対効果）を日韓アジア基金としてしっかりと持っておきたい、そのためにも両校での教科書補填後の状況の把握を実施しました。

新学期が始まり、教科書を子どもたちに配布してから約2ヶ月強がたった時点での、現地からの初回の報告によりますと、具体的な成果として以下のような点が挙げられました。

一人残らず教科書を持って授業を受けています。



1. 月次の試験の点数は概ね70点～85点、四半期毎の試験の点数は80点～85点となりました。昨年までとの比較では、明らかに向上しており、おそらく過去最高の成績だったと考えられます。

2. 子どもたちが以前に比べて文字をより上手に読めるようになっており、家で宿題ができるので、授業についていけないということが少なくなりました。家で教科書を事前に読んできているので、授業開始の段階から子どもたちが質問をするようになり、以前に比べて、先生に質問をするということ自体に抵抗が無くなっているようです。



図書室で本を読む子供

3. 先生にとっては、子どもが予習をしてきているので、以前よりも説明が容易になりました。また、以前は先生が黒板に書いたことを子どもたちが全て書き留めなければならなかったのが、教科書があることで全てを書き取る必要がなく、授業を進行していく上での時間管理がしやすくなりました。全体的に、教科書があることで子どもの出席率も向上したと思われまます。

◆以下は先生・子どもたちから、支援者の皆様へのお礼の言葉です。

先生方 「日韓アジア基金の皆様が支援して下さった教科書や教員用教材は、授業で大変役立っており、心からご支援に感謝します。子どもたちの教育環境を一層向上していくよう、これからも日韓アジア基金と協力して努力していきたいと思ひます。」子どもたち 「教科書を下さって本当にありがとうございます。支援して下さった皆さんに感謝しています。僕たち・私たちは前と違って、読むのが上手になりました。次の子どもたちのために綺麗に教科書を使っていきたいと思ひます。」

これらの報告を受けまして、スタッフ一同では、試験の点数が向上したという具体的な成果から、日々の授業の中で起きている前向きな変化まで、多くの具体的な成果が得られていることを大変嬉しく思っています。また、すぐに起きている良い変化だけでなく、現地の人たちの意識の中にも変化が見られることも大変大きな一歩だと思ひます。先生方のコメントの中には、教育環境の向上に向けて責任感が芽生えていることがわかりますし、子どもたちは教科書を次の学年の子どもたちが受け継いで長く使っていけるように大切に扱わなければならないということを感じているのがわかります。ともに、日韓アジア基金が教科書補填前に、リティさんを通じて伝えてもらった内容です。

現在は、現地の他の小学校へと教科書補填の活動を広げております。

カンボジア便り

丸山芳彦

カンボジアの小学校は、11月から始まります。カンボジアでは、教科書は政府が児童の人数分を学校に揃えることになっていますが、紛失したり汚してしまった教科書の補充が十分ではありません。教科書が行きわたらない児童の学力低下が問題になっています。日韓アジア基金では、近年はプノンペン近郊の10の小学校に不足分の教科書を贈っており、たいへん喜ばれております。

今学期も、昨年夏に行ったクラウドファンディングへのご協力や、通常の皆様からのご支援金で昨年10月末に不足分の教科書 1691冊を贈ることができました。ありがとうございました。

学校名	総生徒数	日韓アジア基金が 教科書を寄付した数 2018年10月						
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
1 Preysar	543	20	30	27	45	27	39	188
2 Rakarkor	430	70	45	35	20	10	15	195
3 Trapeangsala	1521	45	52	61	30	32	42	262
4 Preyeng	460	20	20	20	20	30	20	130
5 Kraingpongro	454	45	43	50	45	30	32	245
6 Saksampov	211	36	28	32	30	23	18	167
7 Watkdol	142	15	10	10	10	10	10	65
8 Prekchrey	150	10	10	10	10	10	20	70
9 RS school	183	30	20	15	10	20	10	105
10 WS school	424	40	50	42	50	37	45	264
合計	4518	331	308	302	270	229	251	1691



教科書の購入総額は、2,958 US ドルで、一冊当たり平均で1.75 US ドル、日本円では約192円となりました。一冊当たりの購入価格は年々上昇しています。(参考までに、カンボジアの2018年11月の前年同月比の物価上昇率は2.5%)

我々は、これらの小学校からの要望がある限り、今後もこの活動を継続していきます。

クラウドファンディングのお礼

長内麻誉

皆様こんにちは。いつも日韓アジア基金・日本の活動を支えてくださりまして、心からお礼申し上げます。

以前ニューズレターの発送に参加した際に感想文をのせていただき、それ以来の紙面でのご挨拶になるかと思えます。今回は、昨年夏に行いましたクラウドファンディングの件につきまして、皆さまにお礼の言葉を申し上げたく一筆書かせていただきました。

改めまして、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は昨年3月に大学を卒業し、4月に就職したばかりの新社会人です。学生の頃から日韓アジア基金の活動に参加しておりましたが、社会人になり、週末に自由な時間が増えたこと機に、スタッフとしての活動を本格的に始めました。私は学生時代、中国に留学をしておりまして、その時に偶然会の創設者ウ・スグンさん（中国では大学の先生をされておりました）と出会いました。中国にいる時、ウさんからよく当会のお話を伺い、その思いに心を動かされ、日本に帰国したらウさんの分まで活動に励みたいと決心しました。ウさんは日韓アジア基金・韓国の活動がうまくいかなかったことで、日本のみなさんに本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだと言うことを話していました。これが私が当会の活動に参加するようになったきっかけです。

前置きが長くなりましたが、昨年夏に、クラウドファンディングのプロジェクトを実行いたしました。ずっと会を引っ張ってくださった大澤さんが亡くなられ、残ったメンバーで行う初めての大きなプロジェクトでした。斉藤と丸山を中心に、スタッフ一丸となりPR活動に努めました。やり方は人それぞれでしたが、カンボジアの子どもたちに少しでも多くの教科書を送りたい気持ちでやりきりました。いつも支援してくださっている会員の方や、各スタッフのお知り合いの皆さまの力をたくさんお借りし、なんとか目標の50万円を超えるご寄付を集めることに成功いたしました。この度は皆さまがたくさんの関心とご尽力をいただきましたこと、誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。

■ ご支援を頂いた方々(敬称略) : ありがとうございました!

ウ スグン	米村典子	荒川雄彦	柴田健次	井内和夫	松本美里	荒川未知
伊藤ひとみ	菊池礼乃	梅澤正人	松本忠雄	斉藤乃章	柳明姫	丸山芳彦
若松晴美	伊藤潤	宇井弘	五十嵐安雄	波多野淑子	水谷充徳	李東祐
佐久間聖高	渡部聡	工藤早苗	丸山健太	松本俊之	綾部政徳	友田文子
斉藤好子	丹羽真幸	野原晴	室橋雷太	広瀬隆利	シン ポキ	長内麻誉
斉藤理沙	塩見昌紀	尾山雅朗	Evergreen	キム ボウン	松井秀子	保坂章子
斉藤舞	石谷草	高橋裕二	嵐田玉緒	澤入寛	岡山大夢	西村よし子

昨年ウ・スグンさん来日と韓国事務局発足について

齊藤章乃

昨年の12月に当会のウ・スグンさんが来日し、当会スタッフとのミーティングを実施しました。これまで長い間ウさんとの関係は途絶えていましたが、昨年スタッフの長内さんを通じて連絡が復活、本人から活動を再開したいとの意志表明があり、今般の来日に至ったものです。

■ ウさんからは活動休止していたことについてお詫びの言葉がありました。

今まさに、日本と韓国が歴史の壁を越えていかなければならない時期。韓国に帰国したので、これから韓国事務局の組織を作っていきたい。韓国での組織づくりを行い、SNSを通して全く知らない人たちにも知ってもらいたい、賛同してくださる方をたくさん増やしたい。政界に近い仕事のため多少の制約はあるが、民間レベルでの日韓交流に尽力していきたい。日本の事務局の組織とも緊密な交流を行っていきたい。

■ これに対してスタッフからは次のような発言、提案がありました。

- ・韓国人と日本人が民間レベルで交流し、「好き」「信頼できる」との思いを持った人を増やすことが大切
- ・イベントの動画をアップしたり、HPを充実させていきたい。震災後日本にいる外国人は減少してしまった。交流のため、地道な活動を行なっていきたい。
- ・韓国の方は情に熱い。道に迷った時にいろんな人が快く教えてくれた。ますますの交流を深めていきたい。イベントを通して思うことは、韓国の何かが好きで、交流したくて、きっかけを持ちたくて参加して下さる人は女性に多い。もっと韓国との接点を持って、充実させていきたい。ウさんも戻ってきたので、これからはもっと交流活動ができると思う。
- ・昨年カンボジアへの訪問をしてアジアの現状を肌で感じた。メンタルの病気の人が多い日本も元気にしたい。アジアの平和が世界の平和に繋がると信じる。
- ・日韓アジア基金の『日本と韓国の若者たちが協働してアジアの同胞を支援する』というスキーム、アジアでこのようなことが構想されたことが素晴らしい。我々の力には及ばない政治的な面もあるが、前に進んで行くこと、新しい事を進めていくことをこれからも続けよう。このスキームだけは、守っていこう。

創始者ウさんが活動に加わったことにより、今後の活動の幅が大きく広がることを期待できます。また若いスタッフを中心に前向きな意見を持って活動に加わってくれています。今後、具体的に何ができるのかを十分検討しながら、それでも失敗を恐れず、当会の目的である日韓協働でのアジア支援を実践して参りたいと思います。引き続き、今後とも皆さまからのご支援ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

ボランティアで得たこと

学生 長谷川真希

私は大学でボランティアに関する授業をとっており、その一環としてボランティア活動をインターネットで探していたところニュースレター発送作業を見つけ、参加することにしました。

正直私は、日韓アジア基金という団体の活動内容はおろかその存在自体すら知らず、このボランティアを選んだ理由は「日程が合った」「午前中だけの作業だから気軽」という程度のものでした。しかし、作業に入る前に運営側のスタッフの方が団体の成り立ちから支援先であるカンボジアの状況まで丁寧に説明



してくださったので、発送作業が単純作業以上に意味のあるものに思えました。また、カンボジアの小学校への支援物資である教科書の実物や現地を訪問した時の写真なども見せてくださいました。ニュースレター発送作業自体はカンボジア支援に直結するものではなかったかもしれませんが、作業に当たりカンボジアについて少しでも知り、感じる事ができたのは私にとってとても良い経験になったと思います。

ところで、今回一番驚いたのは参加者の約半数が中高生だったことです。大人の方に囲まれての作業を想定していたため、とても意外でした。また、友達と一緒に参加している子もいれば一人で来たという子もいて参加形態は違いましたが、作業が始まると一緒になって没頭していたのが印象的でした。私自身も久しぶりにエネルギッシュな中高生と過ごすことで元気をもらえた気がします。中高生だけでなく様々な年代の方々と一緒に同じ作業をするという経験は日常生活ではなかなかできないことなので、短時間ではありましたが新鮮さを感じる事ができました。また、今回スタッフの方のお話を伺って「ビビンの会」や「国際交流パーティー」での活動にも興味を持ったので、次回はそちらの方にも足を運んでみたいと思います。有意義な時間を過ごすことができ良かったです。ありがとうございました。

『大澤さんを偲ぶ会』を開催しました

斉藤章乃

昨年12月1日(土)、長年当会の理事を務められ一昨年の12月にご逝去された大澤龍さんを偲ぶ会をアジア文化会館 101 教室にて当会と認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会との合同で開催致しました。当日は大澤さんの奥様の美代様をはじめ、生前大澤さんにご縁のあった多くの方々、当会の江本代表理事、理事の方々、更には当会の創始者であるウ・スグン氏も韓国から駆

けつけ、総勢 50 名を超える盛大な会となりました。

献花台に飾られた大澤さんの遺影に黙とうを捧げた後、参加者の方々に大澤さんとの思い出やエピソードを語って頂きました。途中、幾人もの方が涙声で話す場面が見られた一方、発言からは大澤さんの常にぶれない姿勢と分け隔てない暖かさを感じられたことがとても印象的でした。

またシーズの関口代表理事、池本常務理事ほか皆様が大澤さんの発言録等の掲示や会場の録画撮影などして下さり、非常に内容の充実した会となりました。改めて感謝を申し上げます。

ご参集された皆さま、本当にありがとうございました。引き続き当会を宜しくお願い致します。

ボランティア活動参加に当たって

自修館中等教育学校

代表 加藤 陽菜 (中 2)

伊藤 晋 (教諭)

1 月の NL 発送のお手伝いから、日韓アジア基金のボランティア活動をさせていただくことになりました、自修館インターアクトクラブ (まだ正式な団体にはなっていません) です。この度はこのような貴重な体験の場を設けていただき、心より感謝いたします。

ご指導をいただきながらという形にはなってしまいますが、私たち自身も多くのことを学び、また少しでも早く皆さんのお力になれるよう、メンバー全員が日韓アジア基金の一員と思い、誇りをもって活動に取り組んでまいります。



私たち自修館インターアクトクラブ (仮) は昨年 11 月から活動を開始したばかりの団体です。国連大使である先輩方の話をうかがったり、道徳の授業の中で SDGs の活動についての勉強をするなかで、何か自分にもできることがあるのではないかと考え、国際ボランティアに目を向けたのがきっかけです。そこから友人や後輩たちに声をかけ、現在までで中学 2 年

生 12 人、1 年生 2 人の合計 14 人がメンバーとして参加表明をしてくれるまでになりました。これからの活動しだいでは人数ももう少し増えていくと思っています。

メンバー全員が未経験で、かつ未熟なところも多いですが、ボランティア活動の一員として誇りを持って活動していきます。そしてその活動を通して、自分たちも大きく成長していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(加藤)

生徒の思いを形にさせていただきありがとうございます。様々な形でお世話になると思いますが、今後ともよろしくお願い致します。(伊藤)

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方（敬称略・順不同）

2018年7月15日ニュースレター65号発送作業（19名）

チヨグゾルマーウダバル・遠藤まどか・酒向亜理紗・蔡暁雨・ジョンヨハン・井上成・
山脇麻未・荒木桃花・生田紗穂・飯田凜桜子・奥出華那・大森一咲・長谷川真希・
水谷充徳・千葉まゆみ・長内麻誉・若松晴美・丸山芳彦・齊藤乃章

2018年9月29日グローバルフェスタ スタッフ（7名）

チヨグゾルマーウダバル・ジョンヨハン・水谷充徳・長内麻誉・若松晴美・霧山祐司・
齊藤乃章

2018年10月26日アジア文化会館秋祭り スタッフ（15名）

山中伸広・國井柚希・金澤拓矢・大塚尚子・谷口美佐子・チヨグゾルマーウダバル・
ジョンヨハン・水谷充徳・長内麻誉・若松晴美・霧山祐司・柳明姫・稲垣瑞穂・
丸山芳彦・齊藤乃章

2018年7月17日～2018年12月25日に会費・ご寄付を下さった方（敬称略・順不同）

ありがとうございました。

中田邦雄	福島忠男・シゲ	五十嵐安雄	八坂涼子	大坪玲子	マールツァイト
堀川泰義	柴田健次	吉村悦子	坂口博	片岡彩子	大澤美代
神戸博子	曾根文子	福島悟	千葉まゆみ	武之内教男	岩見豊子
松田えり子	細川敦子	松田明美	小原勝子	矢崎芽生	

◆ ご入金・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

賛助会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

法人会員：年会費 100,000 円

ご寄付： 2,000 円以上 おいくらでも

郵便振替口座

支店名 ○一九(セロイチキウ)店
口座番号 当座 00180-2-25153
口座名義 日韓アジア基金
(カタカナ表記 ニツカンアジアキキョ)

活動会員：活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

賛助会員：定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問い合わせ先＞（日本語でお願いします）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13

アジア文化会館（A B K）内

Tel：090-5812-1471（庶務・会計担当 齊藤）

FAX：03-3946-7599（A B K）

E-メール：nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp

HP：<http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也